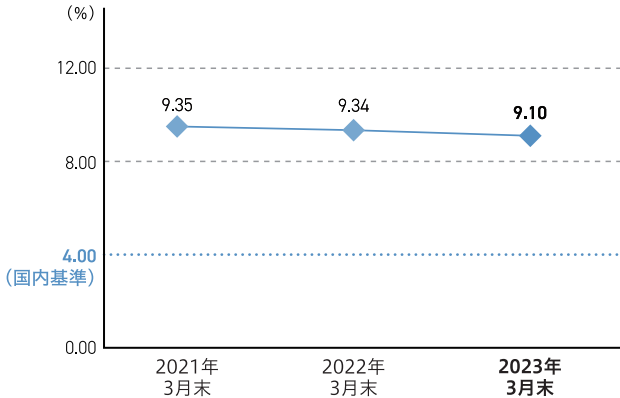


経営の健全性について

自己資本比率の推移【連結】

自己資本比率は、銀行の健全性を示す指標の一つです。

自己資本比率規制(国内基準)に基づく連結自己資本比率は、2023年3月末現在で9.10%となっており、引き続き十分な水準を確保しております。



格付

当行は、日本格付研究所(JCR)から長期発行体格付について「A」を、格付投資情報センター(R&I)から発行体格付について「A-」の格付を取得しており、経営の健全性について高く評価されております。

日本格付研究所
(JCR)



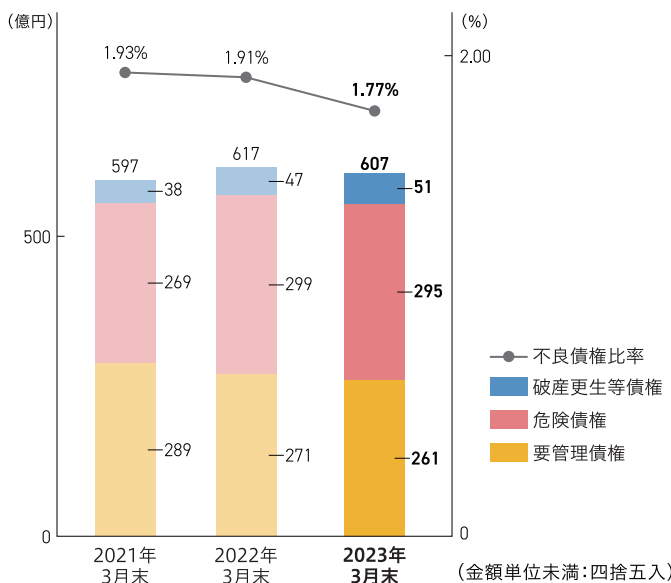
格付投資情報センター
(R&I)



(2023年3月31日現在)

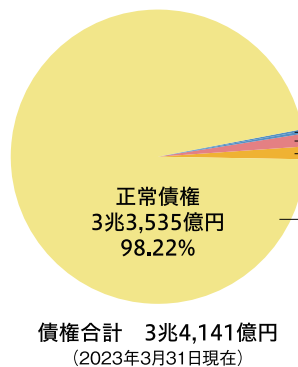
金融再生法開示債権の状況【単体】

当期末の金融再生法開示債権*ベースの不良債権残高は、前期末比10億円減少して607億円となりました。また、債権合計に占める不良債権比率は、前期末比0.14ポイント低下して1.77%となりました。



*金融再生法開示債権とは

金融再生法に基づき、与信額(貸出金・外国為替・支払承諾見返・未収利息・仮払金(貸出金に準ずるもの)及び銀行保証付私募債)を対象とし債務者単位で区分しております。



●破産更生等債権

破産手続開始の申立て等の事由により経営破綻した債務者への債権及びこれらに準ずる債権をいいます。

●危険債権

経営は破綻していないが経営悪化等により、債権の元本の回収などが出来なくなる可能性が高い債権をいいます。

●要管理債権

三月以上延滞している貸出金と債務者の経営再建または支援を図るために金利減免や元金返済猶予等を実施した貸出金の合計をいいます。(要管理債権は個別貸出金単位)

●正常債権

上記「破産更生等債権」「危険債権」及び「要管理債権」以外の債権をいいます。